

(作成年月日) 2024年4月24日

(臨床研究に関する情報)

当施設では、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。この研究は、厚生労働省・文部科学省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年3月23日制定、令和5年3月27日一部改正。)に従って実施しています。この研究に関するお問い合わせや、検体・診療情報をこの研究に利用することにご了承いただけない場合は、下記の連絡先・相談窓口へご照会ください。検体・診療情報の利用にご了承いただけなかった場合でも、それが理由で不利益を受けることはありません。

この研究は、香川大学医学部倫理委員会で承認されています。また、香川大学医学部長より実施の許可を受けています。

[研究課題名] 外科手術困難な急性胆嚢炎患者に対する内視鏡的経乳頭胆嚢ステント (EGBS) 長期留置の後ろ向き検討: Initial EGBS vs Secondary EGBS

[研究の目的]

急性胆嚢炎に対する内視鏡治療として胆嚢～十二指腸にかけてステントを留置することがあります。この治療を行った際の胆嚢炎再発率を低下させるための工夫として、一旦別の治療で胆嚢炎が改善した後にステントを留置する方法の有効性を検討することを目的としています。急性胆嚢炎に対して日常診療でこれまで内視鏡治療を行った患者さんの情報を検討することにより、有効性を検証しようと考えています。研究課題名の Initial EGBS とは胆嚢炎に対する初回治療として EGBS が選択された場合を、Secondary EGBS とは他の治療による胆嚢炎改善後に EGBS が留置された場合を指します。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

急性胆嚢炎の患者さんで、2006年1月1日から2023年7月31日の間に、消化器内科に通院・入院された方。

○利用する情報

情報: 胆嚢炎再発率、再発までの期間、手技成功率、偶発症発生率、年齢、性別、胆嚢結石の有無、胆嚢炎重症度、胆管結石合併率、外科手術高リスクの原因

○利用または提供を開始する予定日

倫理委員会承認日

[研究組織]

香川大学医学部 消化器・神経内科学 助教 鎌田英紀

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院消化器内科 担当医師 中林良太

電話 087-891-2156 (直通) 8:30~17:15 FAX 087-891-2158